

番号	6	二十菩薩		
所在地	佐賀市大和町東山田 平田地区			
災害別	昭和２０年（１９４５）枕崎台風による水害			
目的別	慰 霊		建立年	昭和３０年４月１０日
特記事項				



昭和20年9月17日に襲った枕崎台風は、終戦直後で山野は荒廃し、防災工事も充分とは言えない状況下で、佐賀に大きな被害をもたらした。

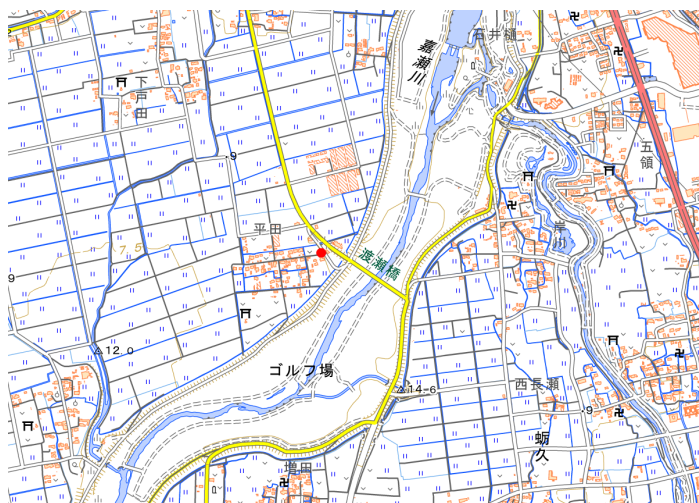
渡瀬橋右岸側、大和町平田地区には、この時の水害で犠牲になった20名を祀る「二十菩薩」の碑が建てられている。

大和町史によれば、枕崎台風当時の状況を「荒れ狂った濁流は流木を伴い、下流の平田橋でせき止められ、井関(原文ママ)の作用をしたためついに平田堤防が決壊した。押し流された平田橋は決壊箇所より流入して付近の住家をなぎ払った形で、住家九戸と二十人の生命を一瞬にして奪い去ったのである。時は十七日午後九時ごろで平田部落は泥海と化した。(中略)更に四年後のジュディス台風はこれに追い打ちをかけた結果となり、部落全体が再起不能を思わせるほどの打撃を蒙ったのであったが、部落の人は協力一致、この苦難を克服して再起した。昭和三十一年四月十日、部落東方に災害記念碑を建立し(注:二十菩薩、水害復旧記念碑いずれも碑の背後には昭和卅年四月十日建立と刻まれている)、あわせて災害によって亡くなった二十人の仏の冥福を祈るため「二十菩薩」の塔を建立し、毎年災害の日を命日

として供養行事が続けられている。」(「大和町史」 昭和 50 年 11 月 3 日発行 P494～P496)
と記されている。



中央が「二十菩薩」の碑 左は昭和 24 年の水害復旧記念碑（別項）



国土地理院電子国土 Web